

# 令和4年度開講「演習ⅠA・ⅠB」一覧

※曜日・時限は予定ですので、変更になる場合があります。

科目名		担当者	曜日	時限	テーマ
上代	日本文学演習ⅠA・ⅠB	土佐 秀里	火	5	万葉びとの恋
	日本文学演習ⅠA・ⅠB	谷口 雅博	火	5	『古事記』の神話を読む
中古	日本文学演習ⅠA・ⅠB	斎藤 菜穂子	火	1	『蜻蛉日記』を読む ——和歌と散文との関係を中心に——
	日本文学演習ⅠA・ⅠB	竹内 正彦	金	5	『源氏物語』「夕顔」巻を読む
中世	日本文学演習ⅠA・ⅠB	野中 哲照	火	5	『平家物語』の木曾義仲拳兵譚を読む
	日本文学演習ⅠA・ⅠB	岩崎 雅彦	木	3	御伽草子の研究
近世	日本文学演習ⅠA・ⅠB	新任教員	木	3	近世の俳諧について
近代	日本文学演習ⅠA・ⅠB	上田 渡	月	6	明治後期から昭和前期までの幻想文学を読みながら、文学テキストの分析の方法について学ぶ
	日本文学演習ⅠA・ⅠB	石川 則夫	火	2	近現代小説の「語り」の方法と機能
日本語学演習ⅠA・ⅠB		吉田 永弘	木	2	上代日本語の研究
日本語学演習ⅠA・ⅠB		鶴橋 俊宏	金	3	江戸ことばの研究
日本語学演習ⅠA・ⅠB		坂本 薫	月	2	日本諸方言の研究
日本語学演習ⅠA・ⅠB		二戸 麻砂彦	金	3	日本語研究における情報機器の実践的活用
伝承文学演習ⅠA・ⅠB		伊藤 龍平	火	6	伝承文学研究の基礎的な方法を身につける
伝承文学演習ⅠA・ⅠB		内藤 浩誉	木	3	日本の伝説の研究史・研究方法を学ぶ
伝承文学演習ⅠA・ⅠB		佐伯 和香子	金	5	昔話研究の方法
伝承文学演習ⅠA・ⅠB		小堀 光夫	土	2	昔話・伝説の研究史と研究法を学ぶ。

## 日本文学演習

【科目名】 日本文学演習 I A・I B	【開講学年】 2年	【曜日】 火曜
【教員名】 土佐秀里		【時限】 5
【登録番号】 0000		
【テーマ】 万葉びとの恋		
<p>(演習内容) 万葉集には、「相聞」という部立があり、ここに多くの恋歌が集められていますが、それだけではなく、「雑歌」や「挽歌」の中にもさまざまな恋愛感情あるいは愛情が歌われています。漢詩が歌うことを好まなかった「恋愛」を、なぜか日本の歌は中心的なテーマとしたのです。本演習は、そうした和歌文学の王道を行く「恋」という主題について、万葉集全巻の歌を対象に、丁寧に考えてみようとするものです。</p> <p>演習は、指示された担当箇所について調査・考察し、年二回、資料を作成して単独で発表を行います。受講生は、発表に対して質疑応答を行い、考えを深めてゆくことが求められます。特別な予備知識は求めませんが、真面目に課題に取り組もうとする意欲を求めます。</p> <p>(評価方法) 「調べた努力の跡」と「深く考えた跡」があるかどうかを評価の基準とします。具体的には、発表資料の質、考察の深さ、新たな着眼点、発表の工夫などを総合的に評価し、さらに質疑応答における演習への参加度や貢献も加味して評価します。向上心と好奇心を高く評価します。</p>		

【科目名】 日本文学演習 I A・I B	【開講学年】 2年	【曜日】 火曜
【教員名】 谷口雅博		【時限】 5
【登録番号】 0000		
【テーマ】 『古事記』の神話を読む		
<p>(演習内容)</p> <p>『古事記』上巻に記された神話を対象とし、学生の発表を中心に据えて授業を行う。本文の的確な読みを検討した上で、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、神話成立の背景や各神話の持つ意味（本来の意味や作品内部における意味）を考え、新たな解釈を試みていく。</p> <p>各自二回の発表を行う。一回目は写本・テキスト・注釈書類の調査を通して本文批判の徹底、訓読・語釈の検討を行う。二回目は他の神話テキストとの比較、索引類を使っての用例調査、先行研究の確認等を通して、神話内容について様々な角度から検討を加え、独自の見解を導き出すことを目標とする。レポートの書き方を身につけるため、最終的には二回目の発表内容をレポートにまとめてもらうことになる。</p> <p>(評価方法)</p> <p>発表資料・発表内容・質疑応答                      50%</p> <p>学年末レポート                      50%</p>		

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【開講学年】2年	【曜日】火曜
		【時限】1
【教員名】斎藤 菜穂子	【登録番号】0000	
【テーマ】『蜻蛉日記』を読む――和歌と散文との関係を中心に――		
(演習内容)		
<p>女流日記文学の嚆矢である『蜻蛉日記』を冒頭から順に読み進める。詠歌に自負するところのあった道綱母によってどのように散文作品が形成されて行ったのか、その道筋を追い、女流文学の成り立ちの動機や意義を考察する。藤原兼家の求婚から結婚成立、新婚期そして夫婦の危機と、和歌を軸にして描かれており、詠歌の変化をも捉えることになる。</p> <p>授業はひとりずつの発表形式で行い、担当学生の発表に続いて討論となる。主体的な発言のない場合は指名する。毎時間何か発言することになると考えて講義にのぞんでほしい。</p> <p>なお、発表者は、担当時の2週間前にテーマの設定が妥当なものかどうか教員のもとに相談に来たうえで、担当時の前週に発表資料を配布すること。全員それを読んだの予習が必要である。</p>		
(評価方法)		
発表	40%	発表資料・発表内容・質疑への応答等を評価する。
出席・発言	30%	全回数の3分の1以上の欠席は不可となる(遅刻3回で欠席1回の扱い)。
レポート	30%	発表時の質問に的確に答え、また論理的な考察になっているかを評価する(レポートのテーマの設定や論証の方法、またその評価についても解説する)。

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【開講学年】2年	【曜日】金曜
		【時限】5
【教員名】竹内正彦	【登録番号】0000	
【テーマ】『源氏物語』「夕顔」巻を読む		
(演習内容)		
<p>『源氏物語』「夕顔」巻の影印本(写本)を輪読する。発表担当者が、担当する範囲について、翻字をしたうえで、調査、考察したことを資料としてまとめて発表し、質疑に答えつつ議論を深めることによって、本文に対する考え方、注釈書の扱い方、文献調査の方法、読解の視点等を学び、日本古典文学についての基本的な研究方法を修得する。発表担当者が責任を持って発表するのはもちろんであるが、他の受講者の積極的な発言も求める。発表は2回を予定。学年末にレポートを課す。</p>		
(評価方法)		
口頭発表	60%	
レポート	20%	
授業への取り組み状況	20%	

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【開講学年】2年	【曜日】火曜
		【時限】5
【教員名】野中哲照	【登録番号】0000	
【テーマ】『平家物語』の木曾義仲挙兵譚を読む		
(演習内容)		
<p>『平家物語』でもっとも人気のある武将は、なんといっても木曾義仲でしょう。高等学校の教科書にも載る「木曾最期」は、涙なしには読めません。その章段は『平家物語』の巻九にあるのですが、そもそも「最期」以前の木曾義仲は、どのように描かれているのでしょうか。この演習では、木曾義仲挙兵譚に相当する『平家物語』の巻七・巻八を読みます。</p> <p>ところで、『平家物語』は数多くの異本があることで知られています。異本を比べ読みすると、木曾義仲の人物像や合戦場面のイメージがずいぶん異なることに気づきます。表現の微細な差異から多くの情報を得て、部分と全体、機能と演繹を反復し、緻密な想像力と豊かな感受性を鍛えてゆきます。</p> <p>面白くも、ためになる演習でありたいと思っています。</p>		
(評価方法)		
<p>平常点（出席点、授業時のレポートや研究発表）</p> <p>定期試験は行いません。</p>		

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【開講学年】2年	【曜日】木曜
		【時限】3
【教員名】岩崎雅彦	【登録番号】0000	
【テーマ】御伽草子の研究		
(演習内容) 御伽草子『八幡の御本地』（はちまんのごほんじ）を扱う。御伽草子は室町時代から江戸時代前期にかけて製作された短篇の絵入りの読み物の総称である。		
<p>『八幡の御本地』は寺社縁起を題材とする御伽草子で、神功皇后（じんぐうこうごう）による異国討伐など、八幡宮の由来を語る物語である。</p> <p>授業は個人発表の形で、本文の校訂・語釈・現代語訳を行う。また以上とは別に、影印本を用いて写本を読解する能力を習得する。</p>		
(評価方法) 発表 50%、試験 50%。欠席は原則として認めない。筆記試験は影印の読解で、前期と後期の最終授業時に行う。		

【科目名】日本文学演習 I A・I B	【開講学年】2年	【曜日】木曜
		【時限】3
【教員名】新任教員	【登録番号】0000	
【テーマ】(おそらく近世の俳諧について)		
<p>(演習内容)</p> <p>専門は、近世俳諧。著書は、次のとおり。</p> <p>〔単著〕</p> <p>『蕪村俳諧の研究』和泉書院、2004年</p> <p>〔共著〕</p> <p>『近世日本文学の世界』日本放送出版協会、1988年</p> <p>『近世日本文学』日本放送出版協会、1992年</p> <p>『蕪村全集第八巻「関係俳書」』講談社、1993年</p> <p>『近世の日本文学』日本放送出版協会、1998年</p> <p>『蕪村全句集』おうふう、2000年</p> <p>『鑑賞女性俳句の世界—第一巻女性俳句の出発—「自由闊達な文人尼 菊舎尼」』 角川学芸出版、2008年</p> <p>(「仮シラバス」の代わりに、清澄先生のご専門がわかるように学科教務委員が記させていただきました。)</p>		
(評価方法)		
未定		

【科目名】日本文学演習 I	【開講学年】2年	【曜日】月曜
		【時限】6
【教員名】上田 渡	【登録番号】0000	
【テーマ】明治後期から昭和前期までの幻想文学を読みながら、文学テキストの分析の方法について学ぶ		
<p>(演習内容)</p> <p>文学テキストの研究、分析をする場合の基本的な考え方、理論、技術について紹介、解説をする。なぜこの時期の幻想文学を対象テキストにするのか、その理由は主として二つある。第一に分析対象として比較的扱いやすいということ、第二には、近代文学研究上最も重要な概念のひとつである「語り・語り手」について受講者が理解しやすいだろうことにある。さらにいえば、幻想文学は短編がほとんどで読みやすく、おもしろい。授業は発表形式で行い、毎回担当学生の発表、討論という形で行う。発言のない場合は指名する。取り扱う作品はある程度こちらで指定する。その中から選ぶことを原則とする。昨年度の授業では泉鏡花、谷崎潤一郎、内田百閒、江戸川乱歩、夢野久作などの作家のものをとりあげた。</p>		
(評価方法)		
レポート 70% 発表 20% 質問 10%		

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【開講学年】2年	【曜日】火曜
【教員名】石川則夫	【登録番号】0000	
【テーマ】近現代小説の「語り」の方法と機能		
<p>(演習内容)</p> <p>日本近現代文学の小説における「語り」の方法を分析し、その機能について考える。前期は1人称小説の特質に焦点をあてて、夏目漱石、川端康成、太宰治などの諸作品から選択し、演習発表の方法を身につける。夏期休暇には後期に予定する3人称小説を精読してレポートを作成し、その中から候補作を選択して演習する予定。森鷗外、泉鏡花、夏目漱石、芥川龍之介、三島由紀夫などの作品になる予定。</p> <p>また、諸作品の先行研究論文の読解と批判検討の方法に習熟することも目標とする。</p>		
<p>(評価方法) 前期発表、前期末レポート、夏期課題レポート、後期発表、後期末レポート、そして演習時の質疑応答の状況を総合的に評価する。</p>		

## 日本語学演習

【科目名】 日本語学演習 IA・IB	【開講学年】 2年	【曜日】 木曜
		【時限】 2
【教員名】 吉田永弘	【登録番号】 0000	
【テーマ】 上代日本語の研究		
(演習内容)		
<p>この演習では、万葉集を読み進めながら、日本語学的な調査と分析の方法を身につけることを目的とする。</p> <p>はじめに、担当教員が上代日本語の文字・音韻・文法について簡単に説明した後、一首ずつ割り当てるので、自らの担当歌について、どう読めばよいのか、どう訳せばよいのか、調べて考えて資料にまとめて発表する。発表を経てさらに問題を追究し、レポートにまとめる。</p> <p>以上の作業を通して、上代日本語の理解を深めつつ、日本語学の研究法を学ぶ。あわせて、発表する力・レポートを作成する力を養う。</p>		
(評価方法)		
発表 50%、レポート 50%。		

【科目名】 日本語学演習 IA・IB	【開講学年】 2年	【曜日】 金曜
		【時限】 3
【教員名】 鶴橋俊宏	【登録番号】 0000	
【テーマ】 江戸ことばの研究		
(演習内容)		
<p>戯作を資料として、江戸時代後期の江戸ことばがどのようなものであったかを考察する。文学就中近世戯作を言語資料とすることの諸問題、文法・語彙に関しては国語史の中の位置をも視野に入れる。</p>		
(評価方法)		
口頭による発表 2回および期末レポートによる。レポートのテーマは授業時に指示する。		

【科目名】 日本語学演習 I	【開講学年】 2年	【曜日】 月曜
		【時限】 2
【教員名】 坂本 薫	【登録番号】 0000	
【テーマ】 日本諸方言の研究		
(演習内容)		
<p>日本語の地域的バリエーションである「方言」について学ぶ。前期は方言に関する概説書のまとめ、後期は日本諸方言に関する調査をして発表をする。いずれも担当箇所について資料にまとめ、授業当日は発表と質疑応答を行う。前期はテキストから担当する賞を決め、理解した内容を資料にまとめる。後期は担当する地点を決めその地点の方言に関する資料(記述書・方言辞典・方言地図・音声資料・コーパスなど)を参照しながら、担当する方言の特徴</p>		

についてまとめて発表と質疑応答を行う。

(評価方法)

発表(前期・後期で1回ずつ)と期末レポート、質疑、出席

【科目名】日本語学演習 IA・IB	【開講学年】2年	【曜日】金曜
【教員名】二戸 麻砂彦	【登録番号】0000	【時限】3
【テーマ】日本語研究における情報機器の実践的活用		
(演習内容)		
<p>紙と筆記用具は日本語研究における伝統的な媒体(メディア)である。音声言語を対象とするフィールドワークでさえも、その記述段階においては同様であろう。これら不動のスタンダードに対して、近年新たな媒体が出現した。パーソナル・コンピュータやインターネットに代表される、いわゆる情報機器およびそれを取り巻く環境である。日本語研究についても、その急速な普及は従来からの方法論に加えるべき課題を投げかけている。本演習では、これまで築き上げられてきた日本語研究の成果を踏まえながら、情報機器や情報ネットワークを活用した日本語研究の現状と方法論を紹介しつつ、情報教室において実践的な演習を展開する予定である。前期は近現代語を、後期は古典語を対象とするが、日本語研究のみならず、日本文学研究にも資する内容を含むことになる予想される。おおまかな内容を掲げておく。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 音声言語と文字言語との役割(課題例:IPA 国際音声字母と日本語)</li><li>2 なぜ媒体を必要とするのか(課題例:夏目漱石『坊ちゃん』の原稿と活字)</li><li>3 電子的媒体の現状と将来(課題例:村上春樹『カンガルー日和』と映像)</li><li>4 古典語研究とパーソナル・コンピュータ(課題例:『源氏物語』のネット検索)</li><li>5 ネットワークの歴史と現状(課題例:天草版『平家物語』のデータベース化)</li><li>6 文字コードの諸問題(課題例:『類聚名義抄』翻刻における掲出漢字)</li></ol>		
(評価方法)		
出席30%: 選択科目であるから、それぞれの積極的な意志のあらわれとして、授業時の取り組みを評価の対象としたい。		
課題70%: 授業計画内容の各章に沿って、その内容が理解できているかを問う課題設定をする。前期3回、後期3回の予定。		



## 伝承文学演習

【科目名】 伝承文学演習 IA・IB	【開講学年】 2年	【曜日】 火曜
		【時限】 6
【教員名】 伊藤龍平	【登録番号】 0000	
【テーマ】 伝承文学研究の基礎的な方法を身につける。		
<p><b>【演習の内容と目的】</b></p> <p>資料の扱い方や先行研究の収集技術、調査方法の習得を目的とする。前期は伝説を、後期は昔話を扱う。発表は、前期・後期各一回。学期末に、各学期の授業（自身やクラスメイトの発表）を振り返ったレポートを提出する。</p> <p><b>【前期】</b> 受講生の故郷の伝説について調べ、問いを見つけて発表し、質疑応答を行なう。  「故郷」は必ずしも出身地に限らず、発表者が住んだことがある土地ならばどこでもいいし、隣接する自治体でもいい。また、地域に結びついていれば世間話を対象にしてもかまわない。発表は以下の六点を基本とし、各自、アレンジをすること——①伝説の紹介、②当該伝説に関わる事物の紹介、③資料内で用いられている語の語釈、④伝説の現代における展開、⑤関連論文の提示、⑥発表者の見解。</p> <p><b>【後期】</b> 受講生が関心を持っている昔話の話型、もしくはモチーフを一つ選び、問いを見つけて発表し、質疑応答を行なう。資料収集には『日本昔話大成』、及び『日本昔話通観』を活用し、また、事典・辞典類にも目を通し、日本の昔話を相対的に捉えるようにする。発表は以下の四点を基本とし、各自、アレンジをすること——①話型もしくはモチーフの紹介、②（必要に応じて）語釈、③関連論文の提示、④発表者の見解。</p>		
(評価方法)		
発表……………40%	授業参加・受講態度……………20%	
質疑応答……………20%	学期末レポート……………20%	

【科目名】 伝承文学演習 IA・IB	【開講学年】 2年	【曜日】 木曜
		【時限】 3
【教員名】 内藤浩誉	【登録番号】 0000	
【テーマ】 日本の伝説の研究史・研究方法を学ぶ		
<p>(演習内容)</p> <p>伝説を中心とした伝承文学の研究手法（資料収集・調査方法や比較・分析など）について、理解と実践を 深め、自身で研究論文を作成できることを目指す。前期 10 回は主に講師による具体的説明（講義形式）を行い、それを踏まえて、前期中盤から毎回担当者が 研究発表を行う。なお、発表は受講生全員が実施するものとする。</p> <p>定員：20 名</p> <p>※授業構成に関わりますので、Max21 名の受け入れでお願いします。</p>		
(評価方法)		
発表内容、レポート、平常点（質疑応答などの授業参加、コメントペーパーの提出）		

【科目名】 伝承文学演習 I A・I B	【開講学年】 2年	【曜日】 金曜
		【時限】 5
【教員名】 佐伯 和香子	【登録番号】 0000	
【テーマ】 昔話研究の方法		
(演習内容)		
<p>昔話の研究史と研究方法を学ぶことを目的とする。受講生は全員、少なくとも一回は口頭発表を行う。発表者は、異類智譚、異類女房譚、誕生譚、運命と致富譚、隣の爺譚、継子譚、異郷譚、逃竄譚などの本格昔話から一つを選び、資料集を用いてその分布を調べ、地域性や歴史的な展開を明らかにする。研究発表のための資料集め、レジュメ作りには相当の時間がかかることを覚悟してほしい。また、近代以前の文献や外国の昔話との比較なども視野に入れることを目指す。各自が問題意識を持って参加することが重要である。</p>		
(評価方法)		
<p>口頭発表・夏期課題・授業参加・学年末レポートによって評価する。口頭発表および3分の2以上の出席は必須であり、毎回の発表に関する討議への積極的な参加が求められる。</p>		

【科目名】 伝承文学演習 I A・I B	【開講学年】 2年	【曜日】 土曜
		【時限】 2
【教員名】 小堀光夫	【登録番号】 0000	
【テーマ】 昔話・伝説の研究史と研究法を学ぶ。		
(演習内容)		
<p>本講座は、昔話・伝説の研究史、昔話・伝説を中心とした伝承文学の分析、比較等の研究法を学ぶ事を目的とする。</p> <p>前期の授業は、本講座担当の小堀が、外部組織の一員として協力した、文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」として秋田県教育庁文化財保護室・秋田大学が製作、管理するホームページ「秋田の昔話・伝説・世間話 口承文芸検索システム」(<a href="http://namahage.is.akita-u.ac.jp/monogatari/riyou.php">http://namahage.is.akita-u.ac.jp/monogatari/riyou.php</a>)を利用して授業を進める。受講者は、上記ホームページ「秋田の昔話・伝説・世間話 口承文芸検索システム」を使って、自分が研究したい口承文芸を選択し、前期の口承文芸研究の研究法の授業をふまえた研究発表を行うこととする。</p> <p>後期は、夏期休暇等に、桃太郎、浦島太郎、弘法大師、小野小町、西行等、人物に関する伝説、世間話、昔話から一つテーマを決めて調査、研究し、同じように口頭発表する。</p> <p>前期、後期とも発表内容は、事典や辞書、概説書、ホームページなどの紹介といったものではなく、実際に自分で調べた調査資料に基づき、自身の問題意識や考えを明確に表したものが望ましい。</p>		
(評価方法)		
<p>前期、後期の二度の発表と発表資料、授業参加(授業時の質疑等の発言)、授業時の発表をまとめた単位レポート(400字詰原稿用紙10枚以上)によって評価する。</p>		